別紙２

防災道の駅やちよ
整備計画

令和4年3月

防災道の駅やちよ整備検討会

目　次

1　防災施設の規模・配置検討 2
(1)　避難者と備蓄基準日数の想定 2
①　避難人数 2
②　備蓄基準日数 2
(2)　防災施設規模の検討 3
①　基本的な防災機能 3
②　その他の機能 9
③　施設の整備規模 13
(3)　防災施設の配置検討 18
(4)　防災体制（ソフト施策）の推進 23
①　基本的な体制 23
②　その他の体制 25
2　実現に向けた役割分担（案） 27
3　整備スケジュール 28
4　更なる賑わい創出の取組 30

はじめに

本整備計画は、令和３年６月に国土交通省の「道の駅」第３ステージの取組である「防災道の駅」に道の駅「やちよ」（以下、「やちよ」という。）が選定されたことを受け、学識経験者と行政そして民間有識者からなる整備検討会において計画、策定された整備コンセプトに基づいた施設整備や賑わい創出の進め方を示したものです。

整備コンセプトでは、「防災道の駅やちよ」は単なる防災施設の整備のみではなく、新たな施設整備を契機とした「やちよ」の更なる賑わい創出を図ることを目的としているところであり、本整備計画では防災施設のみならず、「やちよ」の活性化に資する施設・取組も対象となるよう留意しました。

なお、整備計画に掲げた施設・取組のうち、検討・整備が中長期にわたるものについては、市の上位計画にも位置づけることで、継続した施策展開が図られることを期待します。

1　防災施設の規模・配置検討

(1)　避難者と備蓄基準日数の想定

災害時に求められる施設整備を検討するにあたり、本整備計画では、防災施設の基準となる使用人数を以下の条件により想定しました。

① 避難人数

災害時にやちよ農業交流センター（以下、「農業交流センター」という。）が復旧活動部隊(警察)等の活動拠点として運用されることを想定し、道路利用者や地域住民等を八千代ふるさとステーション（以下、「ふるさとステーション」という。）で受け入れ、車中泊避難をした場合、以下の算定式より最大 400 人程度の避難者を想定しました。

算定要領
駐車場マス数／２(感染症対策から、１台／２マス)×３(人／台)(仮定)
＝約 165 人（ふるさとステーション)、約 162 人（農業交流センター）

② 備蓄基準日数

「道の駅」に避難される方は、十分な非常持ち出し品を携行できていないことが想定されるため、備蓄基準人数は市の備蓄計画より３日間を基準としました。

３　食品の確保　【経済環境部】

(1) 市の食品確保体制

食品の確保は，経済環境部長が本部長の指示に基づき，次のとおり行う。

ア　災害発生第１日目～第３日目の配給食料は，市の備蓄食品を使用する。

イ　弁当，梅干し，佃煮等の副食，調整粉乳については市内関係業者及び市薬剤師会，薬局等の粉ミルク販売取扱業者からそれぞれ緊急調達する。

出典：八千代市地域防災計画【震災編】（令和４年２月／八千代市防災会議）

（2） 防災施設規模の検討

防災施設の整備にあたっては、両施設に共通する「基本的な防災機能」と、それぞれの施設特性に応じた「その他の機能」に分類し、必要となる施設機能と整備規模を検討しました。

① 基本的な防災機能

1） 無停電化

災害による停電時には、無停電設備は機械設備等の機能維持のほかに、照明や携帯端末の充電等避難者の安心と安全の確保に繋がる重要な施設であり、非常用電源を備えた無停電設備の整備によるライフラインの確保を図ります。

安価で簡易に整備が可能な設備としては、小型発電機等があげられますが、「やちよ」の施設規模や想定避難者数に応じた機能を有するか十分な検討を行う必要があります。

なお、地球環境にやさしいクリーンエネルギーとして、近年は太陽光や天然ガス、バイオマス等による発電が注目されているところであり、無停電設備の施設選定にあたっては環境配慮の側面からも検討します。

小型発電機
出典：「道の駅」の防災機能強化について
（国土交通省）

非常用電源
出典：重要インフラの緊急点検結果の説明資料
（平成 30 年 11 月／
重要インフラの緊急点検に関する関係閣僚会議）

太陽光発電（赤枠）
出典：道の駅「どまんなか　たぬま」
（全国道の駅連絡会 HP）

ガス発電
出典：株式会社 CHIBA むつざわエネジー資料

2） 通信設備

災害時は、被災状況や避難者数等を応援・復旧を担当する機関へ迅速に伝えることが的確な災害対応に繋がります。

また、「道の駅」の施設運営者や避難者が被災後の対応を図る上でも、周辺の被災状況や今後の復旧見通し等を適宜把握できる環境を構築する必要があります。

このため、「やちよ」ではMCA無線の配備による市役所への非常連絡手段の確保や、公衆Wi-Fiの整備による情報収集手段の確保を図ります。

平常時は、道路情報や気象情報のほか、地域・観光情報等の必要な情報を簡単にスマートフォン等から入手できるよう、情報発信とインターネット環境の向上を図ります。

MCA無線

道の駅SPOT

出典：道の駅SPOTご利用ガイド

3） 防災倉庫

災害時に避難者が良好な生活環境を確保するには、食料品や生活必需品等の災害救助物資を日頃から備蓄し、有事に備えるための防災倉庫の整備が必要です。

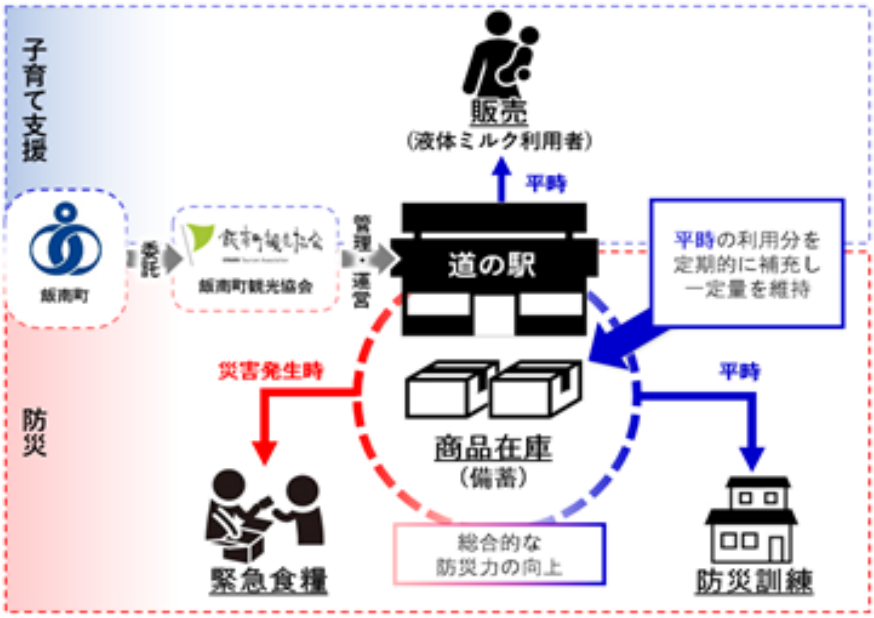
なお、防災備蓄品については、災害時に限定した利用ではなく、日常よりも多めにストックし、日常生活で使っただけ新たに補充することで賞味期限切れ等による廃棄を防ぐ「ローリングストック法」についても、先行事例を参考にしつつ「やちよ」での取組を検討します。

防災倉庫

出典：「防災機能の強化」被災地を支援する道の駅。（国土交通省 中部地方整備局）

防災倉庫

出典：記者発表資料（仙台河川国道事務所／令和３年３月 25 日）



先行事例（道の駅「赤来高原」）のローリングストック概念図

出典：出典：全国「道の駅」女性駅長会／2021 年６月 17 日）

4） 防災トイレ

トイレは生活に必須の施設であり、災害においても機能を維持することが必要不可欠です。

携帯トイレや簡易的な防災トイレは「やちよ」の利用者に応じたストックや使用後の処理に課題があるため、ふるさとステーションでは、平常時にも災害時にも対応できる防災トイレの導入を目指します。

また、防災トイレの整備に合わせて子育て支援を目的とした 24 時間対応可能なおむつ交換スペースや授乳スペースの整備等の災害時・平常時問わない機能強化も検討します。

「やちよ」の現状のトイレ

平常時にも対応できる防災トイレ

出典：「防災機能の強化」被災地を支援する道の駅。（国土交通省 中部地方整備局）

おむつ交換スペースや授乳スペースのイメージ

出典：国土交通省記者発表

5） 貯水タンク

水の確保は飲料や炊事のほか、衛生面での生活用水としても重要です。

貯水タンクは、平常時は水道管と繋がり、タンク内で水が循環し、災害時には水道管と貯水タンクが遮断され、飲料水が確保されます。

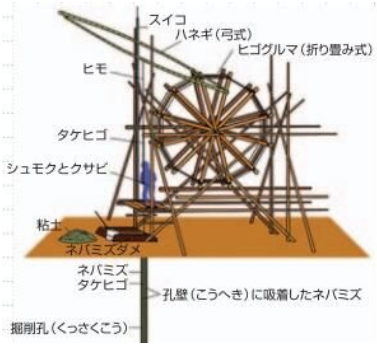
このほか、敷地内に井戸を設け生活用水を確保することも有用であり、その際は千葉県発祥で今や世界各地に広まっている「上総堀り」の技術を活用し、防災教育の一環とする取組も検討します。

貯水槽

出典：「防災機能の強化」被災地を支援する道の駅（国土交通省 中部地方整備局）

防災井戸

出典：公立学校施設設備に関する防災対策事業活用事例集（文部科学省大臣官房文教施設企画部／平成 25 年８月）



上総掘り

出典：千葉県 HP

② その他の機能

1） ふるさとステーションのリニューアル

ふるさとステーションは平成９年にオープンした施設ですが、老朽化に加え、利用者数の増加やニーズの拡大に伴う施設の手狭感が現状の課題です。

農産物直売所の拡充や、来訪者と地元住民の交流の場となるフリースペースの拡充等の施設のリニューアルを行うことにより、より一層の賑わい創出を図ります。

農産物直売所

出典：道の駅「やちよ」HP

施設外観

出典：道の駅「やちよ」HP

情報提供施設

2） 道の駅「やちよ」へのアクセス強化

農業交流センターは、現状で国道 16 号からの入場ができないため、ふるさとステーションよりも交通利便性が劣る課題があります。

災害時における復旧活動部隊の迅速な展開を確保すると共に、平常時における、ふるさとステーションと一体的となった一層の賑わいを創出するために、国道 16 号から農業交流センターへアクセスし、既存市道と接続する進入路を新たに整備します。

進入路の整備なし
（案内板の設置のみ）

内回りのみ出入り可能
（国道 16 号直結の進入路を整備）

双方向で出入り可能
（国道 16 号直結の進入路を整備
＋
交差点を整備）

衛星写真出典：国土交通省

3） 駐車場の整備

道路利用者への休憩機能は「道の駅」の重要な機能の一つですが、ふるさとステーションの大型車駐車マスは 10 台のみであり、農業交流センターは大型車のアクセス性に劣るため、利用しづらい状況にあります。

このため、大型車の運転手が休憩できる環境構築の拡充を目的として、国道 16 号から農業交流センターへのアクセス路整備に併せて、農業交流センターの大型車駐車場スペースを新たに設けます。

また、自動車の CO_2 排出量削減に向け、普及が進んでいる自動車の電動化に対応するため、ふるさとステーションの駐車場へ EV 車充電施設の整備を図ります。

ふるさとステーションの大型車駐車場

農業交流センターの EV 車充電施設

4） ドッグラン等の整備

平常時の賑わい創出、「行ってみよう！」と思う道の駅を目指し、家族の一員でもある愛犬を連れてのドライブの休憩時や、災害時に飼い主がペットと共に避難した際に、愛犬が自由に走り回れるドッグラン等の整備を図ります。

なお、災害時は、ペット連れ避難者への対応等、防災道の駅に求められる機能として活用できるよう検討します。

参考：ちはら台ドッグラン
出典：八千代市八千代市立八千代台東第二小学校跡地整備基本計画
（平成 31 年３月／八千代市）

③ 施設の整備規模

八千代ふるさとステーション

<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th>施設</th></tr>
<tr><td rowspan="3">基本的な防災機能</td><td rowspan="2">無停電化</td><td>携帯電話充電施設（面積：―）
情報提供施設等に固定式充電器整備
（＋ポータブル蓄電池）

左写真出典：道の駅吉野路大淀ｉセンターHP
右写真出典：「道の駅」の防災機能強化について（国土交通省）</td></tr>
<tr><td>非常用電源の設置
（太陽光や天然ガス、バイオマス等の活用）（面積：20 ㎡）
平常時使用電力の約７割を約３日分供給
（浄化槽、情報提供施設、トイレ、駐車場灯）
※クリーンエネルギー等の活用も今後検討

左写真出典：重要インフラの緊急点検結果の説明資料
（平成 30 年 11 月／重要インフラの緊急点検に関する関係閣僚会議）
右写真出典：株式会社 CHIBA むつざわエネジー資料</td></tr>
<tr><td>通信設備</td><td>MCA 無線の整備（面積：―）
市役所との非常通信手段

公衆 Wi-Fi の整備
情報収集（道の駅運営及び避難者等）

出典：道の駅 SPOT ご利用ガイド</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th>施設</th></tr>
<tr><td rowspan="3">基本的な防災機能</td><td>防災倉庫</td><td>防災倉庫の整備（面積：67 ㎡）
避難者対応としての機能
・約 400 人／３日間の非常食、毛布等の備蓄
地域域防災倉庫としての機能
・市備蓄防災資材（テント、簡易ベッド、オムツ等）

出典：「防災機能の強化」被災地を支援する道の駅
（国土交通省 中部地方整備局）</td></tr>
<tr><td>防災トイレ</td><td>現有トイレの拡充、防災化（24 時間化／バリアフリー化等）
（面積：357 ㎡）
浄化槽対応型、安全確保資材
多目的トイレ、オムツスペース、授乳スペース等

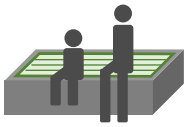
出典：「防災機能の強化」被災地を支援する道の駅
（国土交通省 中部地方整備局）</td></tr>
<tr><td>貯水タンク</td><td>貯水槽の整備（面積：25 ㎡）
避難者に対する飲料水の確保
・約 400 人／３日間の飲料水（約 36 ㎥）
※ペットボトルでも対応
※生活用水として防災井戸の活用等も並行して検討

左写真出典：「防災機能の強化」被災地を支援する道の駅
（国土交通省 中部地方整備局）
右写真出典：公立学校施設設備に関する防災対策事業活用事例集
（文部科学省大臣官房文教施設企画部／平成 25 年 8 月）</td></tr>
</table>

項目		施設
その他	施設リニューアル	ふるさとステーションのリニューアル（面積：―） 防災を考慮した室内のリニューアル（農産物直売所等） 出典：道の駅「やちよ」HP
	駐車場 （ﾍﾘﾎﾟｰﾄを含む）	駐車場の整備(駐車場の拡大、ＥＶ車充電施設整備) （ＥＶ充電器面積：20 ㎡／基） 隣接市整備駐車場の整備 既存駐車場地区への EV 車充電施設整備 ヘリポートは既存駐車場の活用を基本として検討

やちよ農業交流センター

項目		施設
基本的な防災機能	無停電化	携帯電話充電用の蓄電池の設置（面積：―） 災害時はポータブル蓄電池等で対応 出典：「道の駅」の防災機能強化について（国土交通省）
		非常用電源の整備（面積：―） ふるさとステーションとの連携又は発電機等の整備 （想定する電力供給先：浄化槽、トイレ、駐車場灯等） 出典：重要インフラの緊急点検結果の説明資料 （平成 30 年 11 月／重要インフラの緊急点検に関する関係閣僚会議）
	通信設備	公衆 Wi-Fi の整備（面積：―） 情報収集（道の駅運営等） 出典：道の駅 SPOT ご利用ガイド （MCA 無線の整備）（面積：―） ふるさとステーション整備器材の活用
	防災倉庫	（既存施設倉庫の活用）（面積：―） 「やちよ」の防災関連資材 （ポータブル蓄電池、小型水中ポンプ、三角コーン等）

項目		施設
その他	国道 16 号とのアクセス強化	国道 16 号とのアクセス路＋交差点（面積：―） 土地の確保、交差点設置調整等が必要
	駐車場	駐車場の拡大整備（大型車、オートキャンプ）（面積：―） 土地の確保が必要
	トイレ改修	現有トイレの施設機能強化（24 時間化／バリアフリー化等）（面積：―） 浄化槽対応型 多目的トイレ、オムツスペース、授乳スペース等 出典：「道の駅」のトイレの改善に関するチェックポイント＜第２版＞（道路局　国道・防災課）
	避難場所	ドックラン等の整備（面積：―） 土地の確保が必要
	休憩施設	ゆっくり休憩できるスペース（面積：―） 平常時の施設機能の考え方を整理 

（3） 防災施設の配置検討

防災施設は限られた用地内に効率的に配置することが重要です。

ふるさとステーションにおける非常用電源設備・貯水槽・防災倉庫の配置は、これまでも他の施設でみられるような、施設の背面に配置する案と、「やちよ」の利用者に平常時から「防災道の駅」を意識づけていただくために敢えて駐車場の前面に配置する案を併記しました。

今後、施設管理者との業務継続計画（BCP）策定や現地状況に応じた施設設計等、個別の検討を通じて施設配置を確定させます。

ふるさとステーション　配置案１

施設の背面に防災施設を配置する案

・・・ハード整備／防災設備

・・・ソフト整備／災害時の運用

※位置や面積は想定であり、今後の現地確認調査結果等によって、変更の可能性あり

ふるさとステーション　配置案２

「やちよ」の利用者に平常時から「防災道の駅」を意識づけていただくために敢えて駐車場の前面に配置する案

・・・ハード整備／防災設備
・・・ソフト整備／災害時の運用

※位置や面積は想定であり、今後の現地確認調査結果等によって、変更の可能性あり

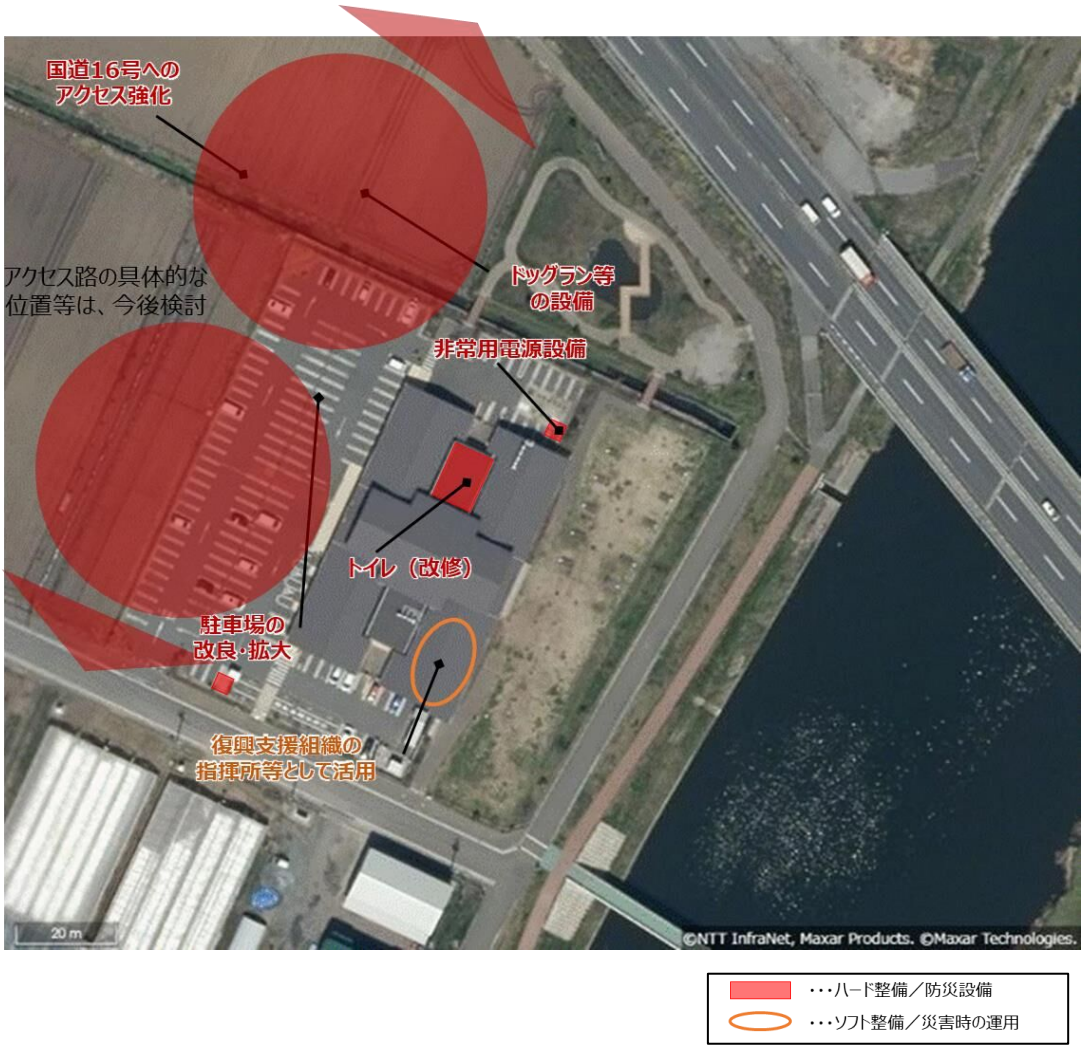
一方、農業交流センターは、復旧活動部隊の活動に必要な資器材等は復旧活動部隊が基本的に携行するため、防災施設の整備は「やちよ」利用者の携帯電話充電等を想定した、簡易な非常用電源設備をオープンスペースに接した位置に設けることを検討します。

小型発電機

出典：「道の駅」の防災機能強化について
（国土交通省）

農業交流センター　配置案

「やちよ」利用者の携帯電話充電等を想定した、簡易な非常用電源設備をオープンスペースに接した位置に配置する案



・・・ハード整備／防災設備
・・・ソフト整備／災害時の運用

※位置や面積は想定であり、今後の現地確認調査結果等によって、変更の可能性あり

（4） 防災体制（ソフト施策）の推進

防災体制（ソフト施策）の検討にあたっては、「防災道の駅」に共通して求められる「基本的な体制」と「やちよ」の特徴を踏まえた「その他の体制」に分類し、必要となる体制を検討しました。

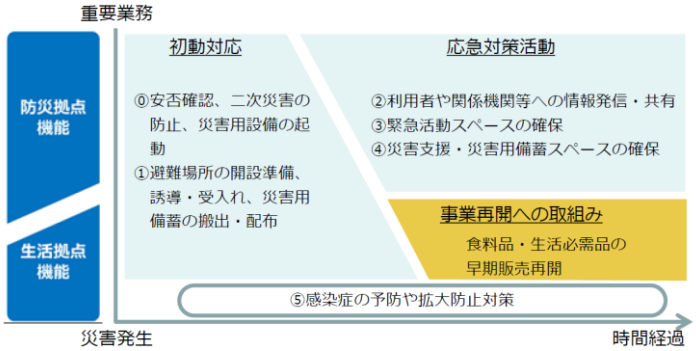
① 基本的な体制

1） 業務継続計画（BCP）

災害時は、「道の駅」に求められる防災機能を確実に発揮しつつ、いち早く通常業務を再開させるため、発災時に「道の駅」が優先して実施すべき重要な業務を明確にし、その業務を確実に実施できるよう、あらかじめ準備を整えておくことが重要です。

その準備として、「やちよ」に求められる防災機能や緊急連絡先リスト、防災設備等の利用手順書等災害発生時の活動に関する具体的な行動計画が明記された業務継続計画（BCP）を策定します。

なお、業務継続計画（BCP）は、『「道の駅」における BCP 策定ガイドライン』『道の駅 BCP 策定マニュアル』に基づき、「道の駅」設置者と道路管理者、「道の駅」管理運営者が連携して策定します。



発災時の業務フロー

出典：「道の駅」における BCP ガイドライン（案）について（国土交通省）

2） 災害協定

災害時に迅速かつ円滑な応急対策等に努められるよう、関係機関等が災害時発生時の協力に関する基本的事項を協定として締結することが重要です。

災害協定は、「道の駅」設置者と道路管理者、必要により「道の駅」設置者と「道の駅」管理運営者間で災害応急活動等に関する事項を定めます。

加えて、「やちよ」は平常時から近隣の農業生産者・産業と連携・交流していることから、農業生産者等と災害協定を締結し、災害時に農産物の提供や農地を避難場所や災害対策資材置き場として活用する等災害時の体制強化を図ります。

3） 防災訓練

業務継続計画（BCP）で策定したような災害時の重要業務を迅速かつ円滑に実施するためには、業務継続計画（BCP）の内容等を関係者等に周知・浸透させることが重要です。

そのため、各担当が災害発生時に自律的に行動できるように、災害協定者間等で対応能力の向上を図るための防災訓練を定期的に実施します。

防災訓練のイメージ①
出典：国土交通省

防災訓練のイメージ②
出典：災害時における警察活動（警視庁）

② その他の体制

1） 掲示板等を活用した防災啓発

災害時に「やちよ」が防災機能を確実に発揮するためには、市民や道の駅利用者に「やちよ」の防災機能や役割を認知していただく必要があります。加えて、災害による被害を最小限に抑えるため、市民や道の駅利用者の災害対応能力や防災に関する知識の向上も重要となります。

そこで、施設内の掲示板や大型モニターで「やちよ」の防災機能や災害時の役割、自主防災に関する情報等を発信し、防災啓発を図ります。

2） 観光資源（新川等）との連携

「やちよ」が「防災道の駅」として機能するためには、整備コンセプトで示したとおり、平常時の活性化が重要となります。

そこで、平常時から新川をはじめとする近隣の観光資源と連携し、八千代市全体の更なる賑わい創出を図ります。

なお、並行して災害時の協力体制の構築等による地域防災力の向上を図ります。

新川遊歩道

出典：八千代市 HP

新川千本桜

出典：八千代市 HP

3） 学びの場

災害による被害を最小限に抑えるためには、「道の駅」の防災機能向上や体制構築だけでなく、市民や道の駅利用者等、一人ひとりの災害対応能力や防災に関する知識の向上も重要となります。

そこで、地域の交流拠点・道路利用者の休憩の場である「やちよ」では、防災に関する知識のレクチャーや相談等ができる「学びの場」を八千代市自主防災組織と連携して設定します。

「学びの場」では、防災のみならず八千代市の郷土・伝統等に関する学習や体験を提供することで、防災関連知識の向上や地域の活性化を図ります。

2　実現に向けた役割分担（案）

「やちよ」の防災機能強化及び平常時の更なる賑わい創出に向けて、各機関で役割を分担し、連携して実施します。

凡例　◎：主な実施主体　○：協同・支援

	道の駅 設置者 （八千代市）	道路 管理者	道の駅 管理運営者	千葉県	関係者等
無停電化	◎	○			
情報提供施設	◎	◎			
通信設備	◎	○			
防災倉庫	◎	○		○	
防災トイレ （トイレ改修）	◎	◎			
貯水タンク	◎	○			
施設 リニューアル	◎				○ （農林水産省等）
国道 16 号 アクセス道路	◎	◎			
駐車場	◎	◎			
ドッグラン等の 整備	◎		○		
業務継続計画 （BCP）の策定	◎	○	◎	○	
災害協定	◎	○	◎		○ （農業生産者等）
防災訓練	◎	○	○	○	
防災啓発	◎		○	○	○ （自主防災組織等）
観光資源との 連携	◎		○		○ （観光協会等）
学びの場	◎		○	○	○ （観光協会、 自主防災組織等）
両施設の一体化に 向けた取組	◎	○	◎		○ （各種関係者等）

3　整備スケジュール

「防災道の駅」は、無停電化、通信や水の確保等、災害時においても業務実施可能な施設が未整備な場合は、今後３年程度で必要な機能、施設、体制を整える必要があります。

このため、これらの施設については検討・設計を経た上で、令和５年度内に機能強化を整える計画としていますが、無停電化については地球にやさしい脱炭素社会を目指し、太陽光や天然ガス、バイオマス等による発電の導入を並行して検討します。

また、「やちよ」の更なる賑わい創出のためには、ふるさとステーションの施設リニューアルと国道 16 号から農業交流センターへの直接アクセス及び大型車の駐車場整備が重要であるため、令和４年から検討に着手することが必要です。なお、ふるさとステーションの改修は、農林水産省の農山漁村振興交付金を活用した、整備推進の加速化を図ります。

ソフト面での取組のうち、災害時の備えとしては、令和５年度までに業務継続計画（BCP）策定と、同計画に関連する災害協定締結や防災訓練実施による施設整備と一体となった防災機能強化を目指します。このほか、平常時の賑わい創出に必要な、新川に挟まれて配置された両施設を繋ぐ取組のうち、「やちよ」の指定管理の範ちゅうや制度の見直し、関係者等との調整を経た上で実施される項目については中長期で取組む事項としました。

八千代ふるさとステーション

	ふるさとステーション	令和４年度	令和５年度	令和６年度以降	備　考
施設（ハード）	**無停電化**	検討・設計	整備		・施設リニューアルと併せ検討
	情報提供施設	検討	設計	整備	・道路情報等の提供システムの更新 （携帯電話充電施設や休憩施設等を検討）
	通信設備	検討・設計	整備		・MCA無線の導入 ・公衆Wi-Fiの強化
	防災倉庫	検討・設計	整備		・国道利用者等の避難対応 ・市の防災資材の分散備蓄
	防災トイレ	検討・設計	整備		・災害対応型に増設改修 ・多目的トイレ新設等、トイレ施設の充実
	貯水タンク	検討・設計	整備		・飲料水等として20㎥タンクを整備（＋ペットボトル） ・生活用水としての井戸活用を検討
	施設リニューアルによる拠点整備	検討・設計	整備		・手狭で老朽化している建屋の機能強化 ・太陽光や天然ガス発電を検討
	駐車場（ヘリポートも含む）	検討	指定／整備		・臨時離着陸場への指定 ・大型車対応、アスファルト化等を検討

注１　ふるさとステーションの施設リニューアルによる拠点整備は、農水省の農山漁村振興交付金を活用し、令和４年度申請・令和５年度事業化を図る
注２　市が整備する基本的な防災機能は、国交省の社会資本総合交付金を活用し、令和４年度申請・令和５年度事業化を図る

やちよ農業交流センター

	農業交流センター	令和４年度	令和５年度	令和６年度以降	備　考
施設（ハード）	**無停電化**	（発電機） 検討	整備		・ふるさとステーションの無停電化との連携又は発電機の整備 ・携帯電話充電の蓄電池等を整備
		（検討・設計）	（ふるさとステーションとの連携）	（整備）	
	通信設備	検討	整備		・MCA無線の導入 ・公衆Wi-Fiの強化
	防災倉庫（防災資材）	検討	整備（防災関連資材等）		・道の駅の運用に必要な防災関連資材を調達 （小型発電機、投光器、蓄電池、小型ポンプ等）
	国道16号アクセス道路	検討		整備	
	駐車場	検討		整備	・大型車対応等について検討
	トイレ改修	検討・設計	整備		・現行トイレの防災機能強化等 （浄化槽の災害時運用を考慮）
	ドックラン等の整備	検討		設置	

注１　国道16号アクセス道路と駐車場の拡大整備は、令和４年度新規事業化を国へ要望

やちよ農業交流センター　共通　八千代ふるさとステーション

	共通	令和４年度	令和５年度	令和６年度以降	備　考
体制（ソフト）	BCP（業務継続計画）の策定	検討	策定		・市と道の駅「やちよ」で調整し、策定
	道路管理者や農業生産者との災害協定	関係機関協議	締結		・市が、関係機関と調整し、締結 （道の駅「やちよ」との連携）
	防災訓練	これまでの取組を継続		BCPを取り入れて訓練方法を拡大	・防災訓練の場としての活用や道の駅「やちよ」で実施する農業体験、イベント等への防災関連項目の導入についても検討
	掲示板等を活用した防災啓発	関係者で調整	実践		・市が、関係機関と調整し、各種啓発資料を作成 （道の駅「やちよ」との連携）
	観光資源（新川等）との連携	検討	試行	実装	・新川千本桜等の観光資源との連携 （サイクリングや舟運等水辺のアクティビティの拠点等）
	「学びの場」の設定	検討	試行	実装	・「学びの場」について関係者間で調整 ・防災井戸を上総堀で行い技術の伝承の場とすることも検討
	既存事業の見直しや両施設の一体化による賑わい創出の取組	手法の検討・関係者間で調整		実践	・関係者間で、これまでの取組を継承・発展と、新たな取組の検討

注１　既存事業の見直しや両施設の一体化による賑わい創出の取組として、農業交流センターの研修室等を活用したカルチャー教室や学びの場の開設、体験農園・市民農園の拡張や農業ボランティア養成講座の充実のほか、他の道の駅の事例等から、イチゴ狩りや各種体験等の待ち時間を双方の施設で表示する情報提供施設、製造・体験した食材等の販売コーナーの新設、イベント等の当日予約の環境構築、サイクリストが双方の施設に立ち寄る仕掛け、双方の施設で同時にイベント発信等のほか、ビッグデータやIoT等最新技術を活用したニューノーマル対応や、大学及び民間企業と連携した第６次産業化の推進等が考えられる

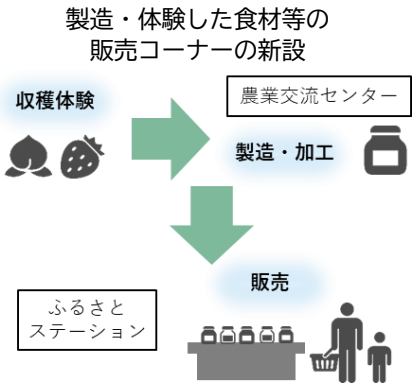
注２　ソフト施策の実施にあたっては、上表に示す関係機関のほか、八千代市の周辺地域も含めた面的な地域活性化に取り組む機関の掘り起こしや、密接な相互連携が重要であることから、既存の枠組みや考え方に囚われない、柔軟な発想での実験的な取組が可能となる制度設計や環境構築が令和５年度には実現できるよう図る

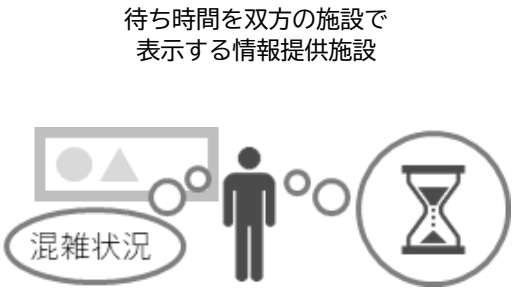
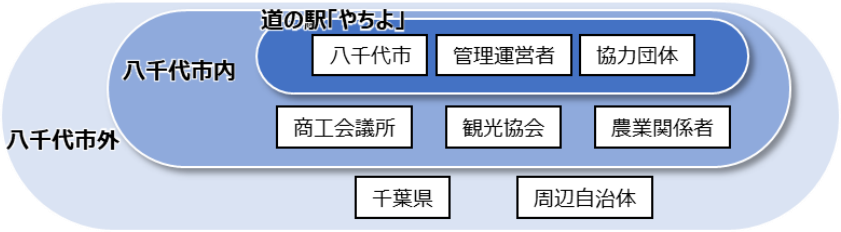
注３　賑わい創出を目的としたソフト施策の実施体制は、民間活力の活用を基本として検討

4　更なる賑わい創出の取組

「やちよ」は“農”を軸に、「ふるさとステーション」と「農業交流センター」それぞれの個性を生かし、地域の賑わい創出を担ってまいりました。本整備計画を契機に、既存事業の見直しや両施設の一体化等を通じ、これまで以上の活性化・賑わい創出を図ります。

既存事業の見直しや両施設の一体化による賑わい創出の取組として、農業交流センターの研修室等を活用したカルチャー教室や学びの場の開設、体験農園・市民農園の拡張や農業ボランティア養成講座の充実のほか、他の道の駅の事例等から、イチゴ狩りや各種体験等の待ち時間を双方の施設で表示する情報提供施設、製造・体験した食材等の販売コーナーの新設、イベント等の当日予約の環境構築、サイクリストが双方の施設に立ち寄る仕掛け、双方の施設で同時にイベント発信等のほか、ビックデータや IoT 等最新技術を活用したニューノーマル対応や、大学及び民間企業と連携した第６次産業化の推進等が考えられます。





八千代市の周辺地域も含めた面的な地域活性化に取り組む機関の掘り起こしや密接な連携